あとがき

宗教の生命と力は、儀式典礼の豪華や建物設備の壮大によるのでなく、その信仰に生きる人間ひとりひとりの確信と生きかたにかかっていると言えます。これは昔も今日も変らぬ事実であります。

信仰に生きる者にはいつも、内にさまざまの試練があり、外に異教社会からの批判や挑戦があります。どうしても正しい確信がなくては、力強い生活を貫くことはできません。

また教会史上、伝道の飛躍がなされたのは、いわば信徒ひとりひとりが伝道者という自覚と生活を進めた時であります。使徒行伝の教会にもこのことは示されています。しかし、ながい歴史の中で、必然とはいえ、教理は神学的に専門化され、伝道はいつか教職の仕事となり、信徒はいつもただ「聞く」だけになってしまった感があります。僅か百年の歴史を経た日本の教会の歩みが、若し少数の教職だけに任されるならば、大きな発展はとうてい望めないと思います。

このように、護教的にも、宣教的にも、今日のわたしどもの教会に実際の役に立つような伝道用信仰問答を作り上げることが、わたしたちの願いでありました。

昭和三十六年度教区総会後、新たに設置された宣教研究委員会によって着手されてから三年

を要した訳です。前任戸田委員長の働きを受け継いだ私の怠慢をおわびせねばなりません。

この間、最初の一年は、教区内のアンケートを参考として、戸田牧師と共に第一試案作成に専念し、おもに同師の非常な熱意と研鑽により成文化されました。時には激論難航、一日五問というようなこともなつかしい思い出です。

第二年度は教区教師や数名の特別委員による第一試案の検討審議を中心として、修正追補を重ね、だいたいの体裁を整えました。第三年度は、残された数項目の完成と字句用語の修正、印刷準備などに意外の時日を費した次第です。この年度初め、戸田牧師は名古屋教会へ転任されましたが、同師の並々ならぬ努力なしには、この書は生まれなかったでありましょう。改めて深く感謝したいと思います。

しかし、こうして出来上ってみると、問題の箇処や不備な点が余りにも多く目につきます。キリスト教の教理は、小さな問答の中にとうてい包むことのできぬ深さと広さを持っていることを、この労作を通して改めて示されました。その無理と困難をじゅうぶんに認めながらも、一つの試みとして送り出します。

信仰生活の現場で実際に使っていただき、今後も対話をつづけながら、わたしたちの力を結集して、一層完成したものを作り上げたいと思います。

各教会で教職の指導を受けて、この書を更に有効に活用されるよう希望するものです。

この小冊が生まれるために、度々の協力を惜しまれなかった教区内の教職信徒有志及び宣研委員諸氏に対して、心から感謝申し上げます。

一九六四年八月一日

東中国教区宣教研究委員長

田　井　中　純　作

キリスト教――その問と答　（実費　1部150円）

1964年9月1日第1版発行
1966年3月1日第2版発行
1968年4月1日第3版発行

編　著　日本基督教団東中国教区
宣教研究委員会

発行所　日本基督教団東中国教区
倉敷市玉島阿賀崎434の1玉島教会内
電話　玉島 ② 4009
振替　岡山　16374

取扱所　同上宣教研究委員会事務所
岡山市蕃山町2の15　蕃山町教会
電話　岡山 ㉔ 1322

日本基督教団東中国教区

宣教研究委員会